遺伝性乳癌卵巣癌症候群（HBOC）について

概要

遺伝性乳癌卵巣癌症候群（HBOC）は遺伝性のがんのひとつで、乳がんや卵巣がんだけでなく腹膜がん、前立腺がん、膵がんの発症リスクが高まる疾患です。乳がんのうち約 5-10%が、卵巣がんのうち約 10-15%が HBOC によるものであると考えられています。HBOC は BRCA1 または BRCA2 のいずれかの遺伝子の変異によって引き起こされます。遺伝子に変異があっても必ずがんを発症するわけではありませんが、HBOC における卵巣癌リスクは一般集団の 35-40 倍と言われており、その生涯発症率は約 15～40%と非常に高くなっています。米国の映画俳優が HBOC を告白したこともあり、日本でもこの疾患が広く知られるようになってきました。

診断について

HBOC は遺伝子検査で診断します。その実施については事前の遺伝カウンセリングが必要です。HBOC に関するご相談は、遺伝カウンセリング外来までご連絡下さい（お電話は、毎週月曜日から金曜日の午後 2 時から午後 5 時まで受け付けています。電話番号は、0744-29-8880（遺伝カウンセリング外来専用）です。

治療について

遺伝子変異そのものを治療することはできません。卵巣がんの早期発見・早期治療が重要となってきます。しかし、一般的に卵巣がんの早期発見は難しく、発見時はその多くが進行がんとなっています。そのため、欧米では BRCA1 または BRCA2 の遺伝子変異を有する女性に、“がんになる前に予防的に摘出”する「リスク低減卵管卵巣摘出術（RRSO）」が日常診療として行なわれています。当院では、2014 年 12 月に、「リスク低減乳房切除術と乳房再建術、リスク低減両側卵管卵巣切除術の奈良県立医科大学附属病院への導入」に関する倫理委員会の承認を得ました。乳腺外科、婦人科、形成外科、麻酔科、病院病理部、緩和ケアセンター、看護部、遺伝カウンセリング室などが HBOC 医療チームとして診療にあたっています。

遺伝子検査や手術の実施にあたっては、この疾患についての説明や検査の必要性などの遺伝カウンセリングが必要です。診療に関わる費用には保険が適用されず、自費診療となります。